

令和 4 年度 高齢者実態調査地区別分析結果 加木屋

1 調査の目的

団塊の世代が高齢期を迎え、高齢化率が年々上昇しています。高齢者を取り巻く社会環境が大きく変化し、多様化する課題やニーズに対応するためには、行政とサービス事業所、そして地域組織が協働し、高齢者が住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らすことができるようするための「地域包括ケアシステム」の構築が必要不可欠です。

東海市では、各地域の高齢者を取り巻く課題を明らかにし、「地域包括ケアシステム」を構築するための基礎的資料及び第 4 次東海市総合福祉計画への反映を目的とし、「高齢者実態調査」を実施しました。

また、分析結果について関係機関等に周知し、地域課題の認識及び解決に向けた取り組みの推進を図ります。

地区別分析では、市の平均との比較から、地区の特徴を見る形で報告しています。

2 調査の内容

対象：令和 4 年 12 月末現在で 75 歳以上となる市内在住の高齢者

時期：令和 4 年（2022 年）5 月 10 日～令和 4 年（2022 年）9 月 30 日

方法：民生委員による個別面接調査（実態調査票）

対象者数：14,624 人

有効回答数（回収率）：13,095 人（89.5%）

○当該地区データ

対象者数：1,121 人

有効回答数（回収率）：1,052 人（93.8%）（平成 29 年度調査の回収数：780 件）

○ 調査結果の表示方法

- 回答数は該当者のみが回答するなど、分析方法によって違いがあります。

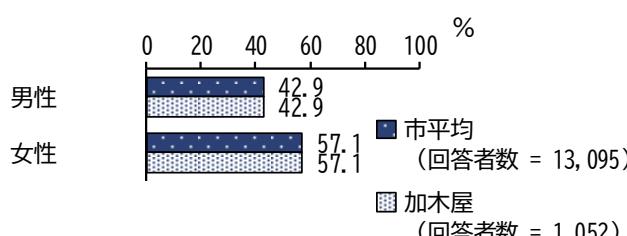
3 地区の高齢者の実態（高齢者実態調査から）

F1 性別／F2 年齢 ※住民基本台帳の情報を参考

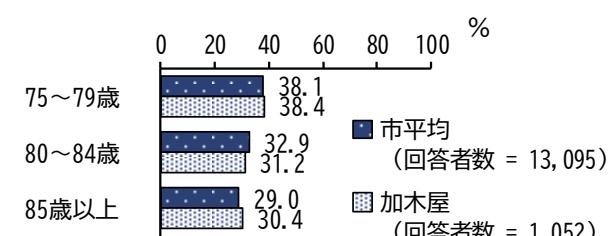
「男性」の割合が 42.9%、「女性」の割合が 57.1%となっています。

「75～79 歳」の割合が 38.4% と最も高く、次いで「80～84 歳」の割合が 31.2%、「85 歳以上」の割合が 30.4% となっています。

[性別]



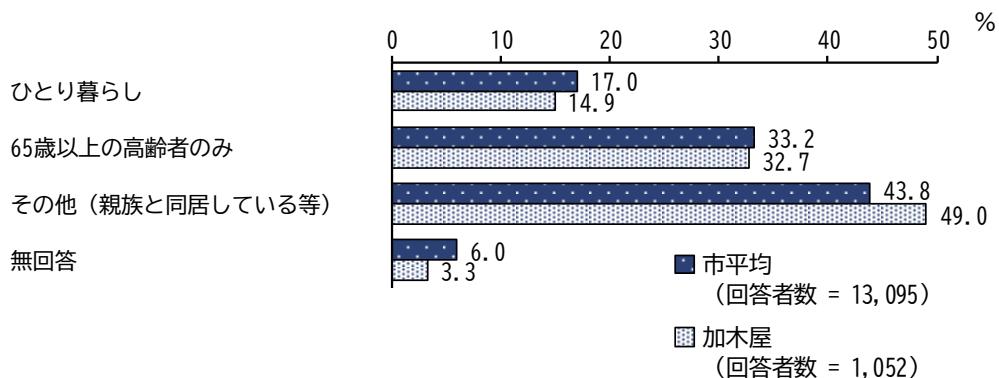
[年齢]



問1 世帯状況

「その他（親族と同居している等）」の割合が49.0%と最も高く、次いで「65歳以上の高齢者のみ」の割合が32.7%、「ひとり暮らし」の割合が14.9%となっています。

年齢別でみると、年齢が高くなるにつれ「ひとり暮らし」の割合が高くなっています。



【性別（問1×F1）、年齢別（問1×F2）】

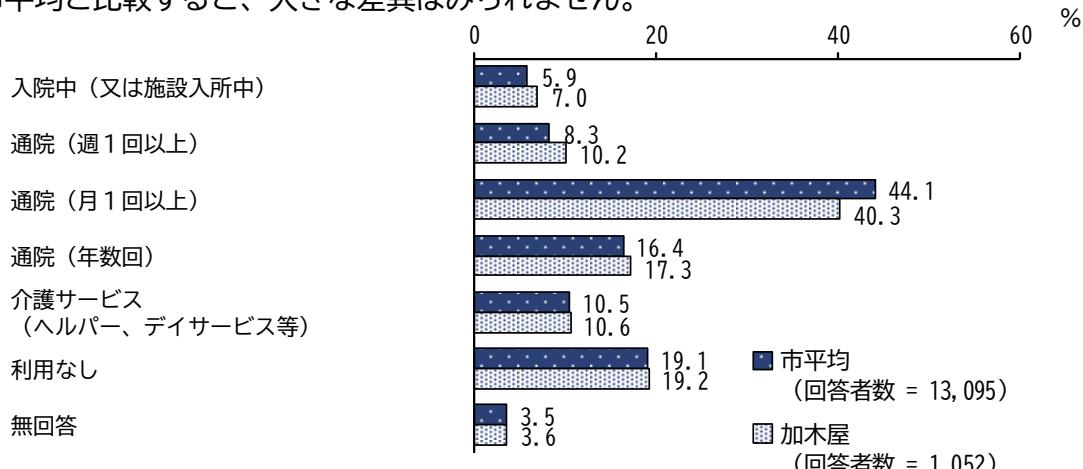
単位：%

区分		回答者数 (件)	ひとり暮らし	のみ の 65 歳 以 上 の 高 齢 者	その 他の (親 族 と 同 居 して いる 等)	無 回 答
全 体		1,052	14.9	32.7	49.0	3.3
性 別	男性	451	12.2	42.8	42.8	2.2
	女性	601	17.0	25.1	53.7	4.2
年 齢 別	75～79歳	404	12.6	39.6	46.0	1.7
	80～84歳	328	16.2	34.8	46.6	2.4
	85歳以上	320	16.6	21.9	55.3	6.3

問2 現在病院や介護保険サービスの利用の有無（複数回答可）

「通院（月1回以上）」の割合が40.3%と最も高く、次いで「利用なし」の割合が19.2%、「通院（年数回）」の割合が17.3%となっています。

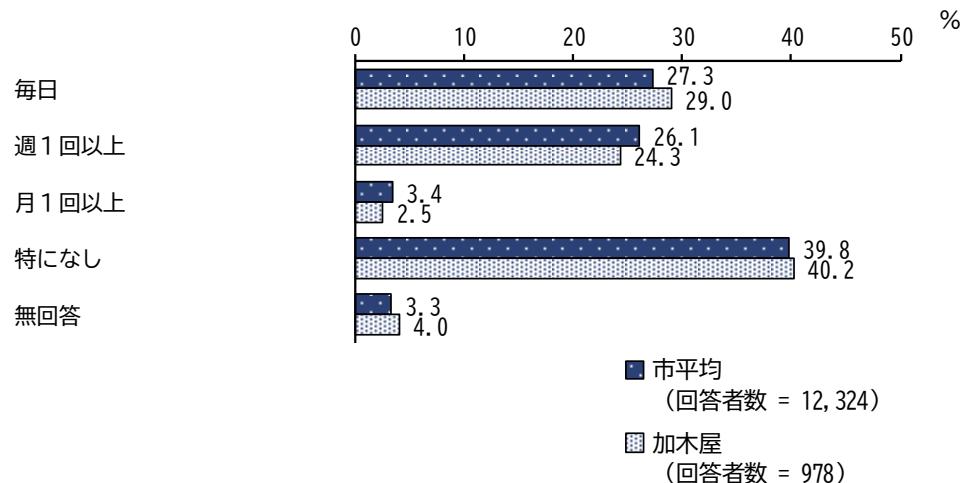
市平均と比較すると、大きな差異はみられません。



問3 体操やウォーキング等、健康づくりによる取り組み状況

「特になし」の割合が40.2%と最も高く、次いで「毎日」の割合が29.0%、「週1回以上」の割合が24.3%となっています。

世帯状況別でみると、その他（親族と同居している等）で「特になし」の割合が高くなっています。



【年齢別（問3×F2）、世帯状況別（問3×問1）、家族外交流別（問3×問4）】

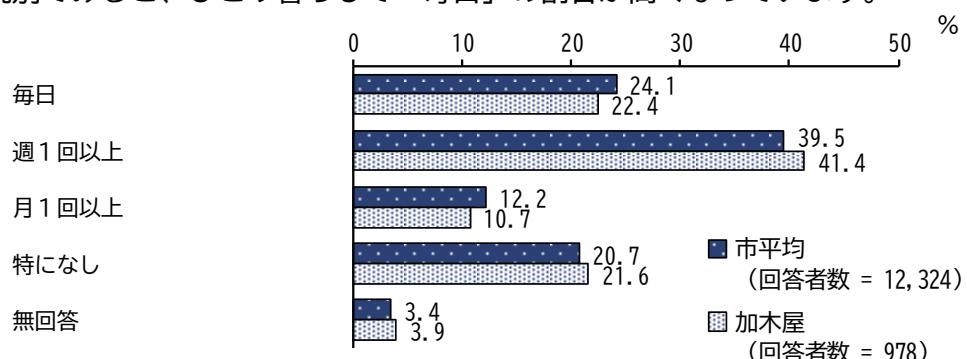
単位：%

区分		回答者数 (件)	毎日	週1回以上	月1回以上	特になし	無回答
全体		978	29.0	24.3	2.5	40.2	4.0
年齢別	75～79歳	398	33.2	26.1	2.0	36.4	2.3
	80～84歳	314	28.7	23.9	2.9	39.8	4.8
	85歳以上	266	23.3	22.2	2.6	46.2	5.6
世帯状況別	ひとり暮らし	144	27.8	24.3	2.1	41.0	4.9
	65歳以上の高齢者のみ	336	30.7	26.2	3.9	36.3	3.0
	その他（親族と同居している等）	483	28.8	23.6	1.7	42.2	3.7
家族外交流別	毎日	219	46.6	17.4	1.8	31.5	2.7
	週1回以上	405	29.9	35.8	2.5	29.6	2.2
	月1回以上	105	16.2	23.8	6.7	49.5	3.8
	特になし	211	17.5	11.8	1.4	67.3	1.9

問4 家族以外の人との交流頻度

「週1回以上」の割合が41.4%と最も高く、次いで「毎日」の割合が22.4%、「特になし」の割合が21.6%となっています。

世帯状況別でみると、ひとり暮らしで「毎日」の割合が高くなっています。



【年齢別（問4×F2）、世帯状況別（問4×問1）】

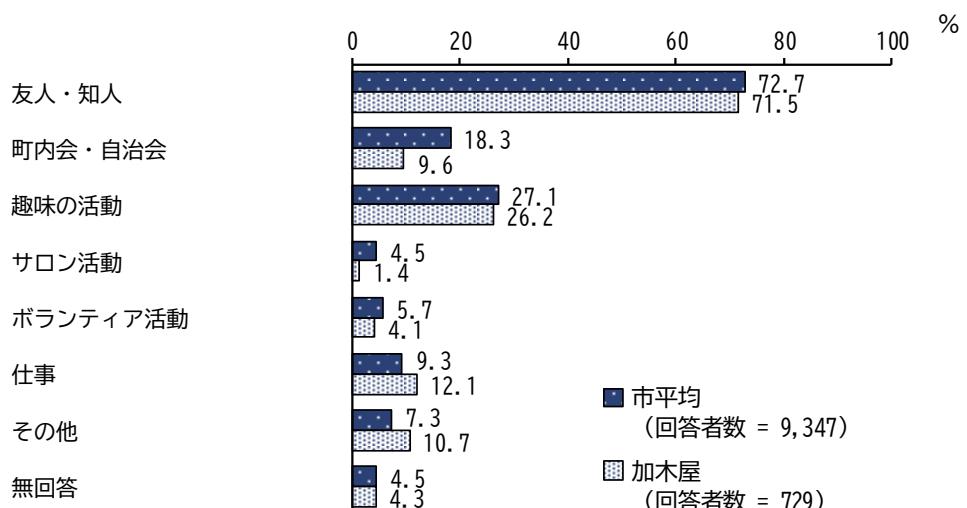
単位：%

区分	回答者数	毎日	週1回以上	月1回以上	特になし	無回答
全 体	978	22.4	41.4	10.7	21.6	3.9
年齢別	75~79歳	398	27.1	43.2	10.3	16.6
	80~84歳	314	21.3	43.6	10.5	21.7
	85歳以上	266	16.5	36.1	11.7	28.9
世帯状況別	ひとり暮らし	144	26.4	38.2	5.6	25.0
	65歳以上の高齢者のみ	336	19.9	44.9	13.7	18.8
	その他（親族と同居している等）	483	23.2	39.3	10.6	23.0

問5 家族以外の交流関係

「友人・知人」の割合が71.5%と最も高く、次いで「趣味の活動」の割合が26.2%、「仕事」の割合が12.1%となっています。

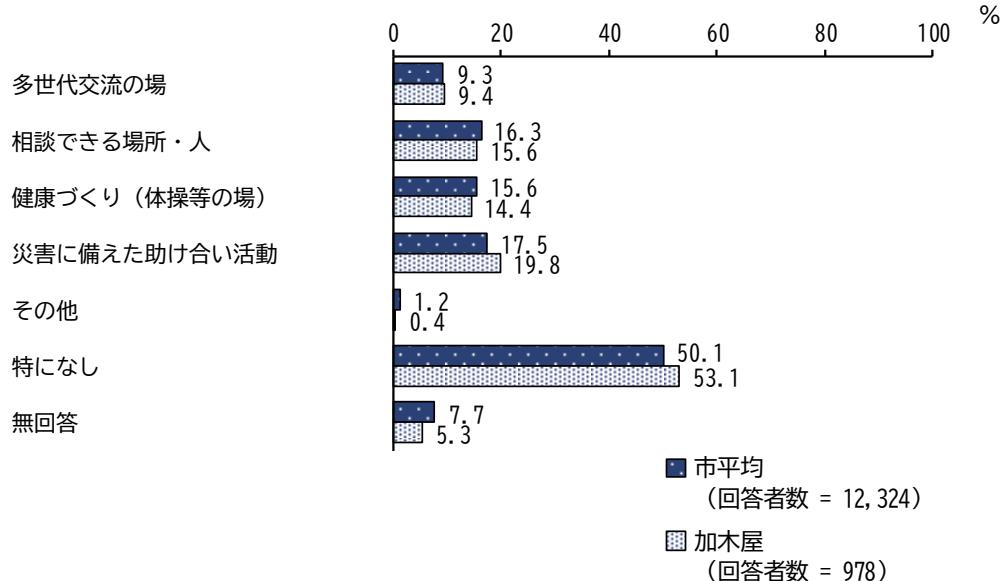
市平均と比較すると、「町内会・自治会」の割合が低くなっています。



問6 安心して生活するために、今後身近な地域に必要と感じるものは何ですか
(複数回答可)

「特になし」の割合が53.1%と最も高く、次いで「災害に備えた助け合い活動」の割合が19.8%、「相談できる場所・人」の割合が15.6%となっています。

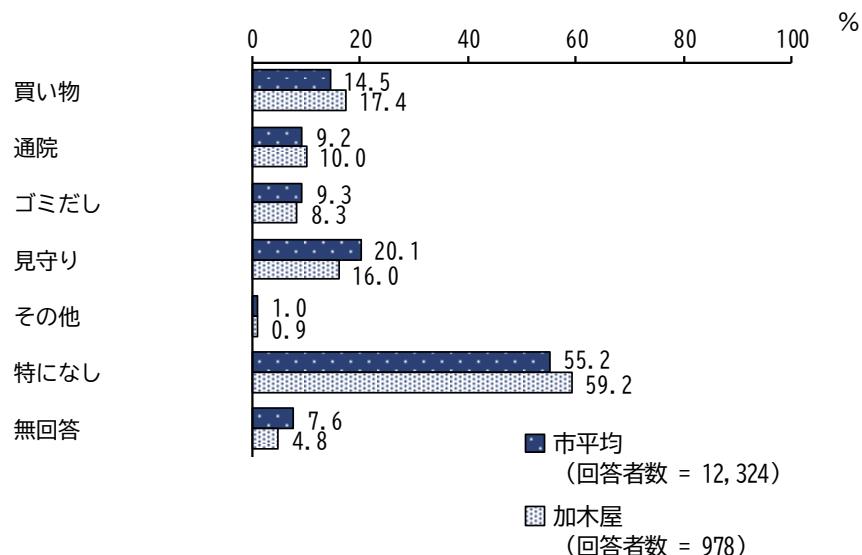
市平均と比較すると、大きな差異はみられません。



問7 今後、地域で助け合えると良いと思うことは何ですか（複数回答可）

「特になし」の割合が59.2%と最も高く、次いで「買い物」の割合が17.4%、「見守り」の割合が16.0%となっています。

市平均と比較すると、大きな差異はみられません。

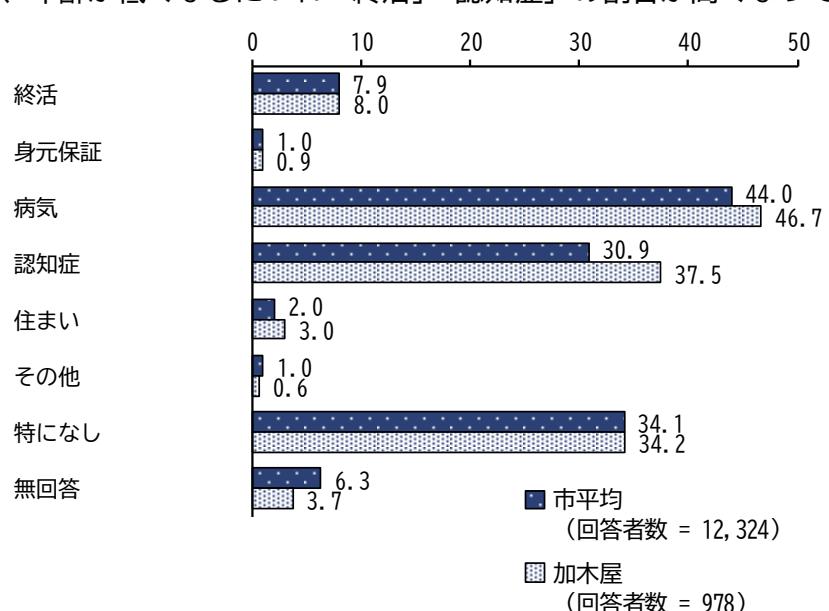


問8 将来への不安に思うことは何ですか（複数回答可）

「病気」の割合が46.7%と最も高く、次いで「認知症」の割合が37.5%、「特になし」の割合が34.2%となっています。

市平均と比較すると、「認知症」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、年齢が低くなるにつれ「終活」「認知症」の割合が高くなっています。



【年齢別（問8×F2）、世帯状況別（問8×問1）、健康活動別（問8×問3）、家族外交流別（問8×問4）】

単位：%

区分		回答者数(件)	終活	身元保証	病気	認知症	住まい	その他	特になし	無回答
全 体		978	8.0	0.9	46.7	37.5	3.0	0.6	34.2	3.7
年齢別	75～79歳	398	10.6	1.5	46.5	40.7	3.5	1.0	34.4	2.8
	80～84歳	314	7.6	0.6	51.9	36.3	2.5	0.3	31.8	3.2
	85歳以上	266	4.5	0.4	41.0	34.2	2.6	0.4	36.5	5.6
世帯状況別	ひとり暮らし	144	9.0	0.7	56.9	41.7	7.6	0.7	23.6	4.2
	65歳以上の高齢者のみ	336	8.9	1.2	51.2	35.4	3.9	0.3	34.5	1.5
	その他（親族と同居している等）	483	7.0	0.8	41.2	37.7	0.6	0.8	37.3	4.1
健康活動別	毎日	284	8.5	1.4	47.5	33.5	2.5	0.4	38.4	2.1
	週1回以上	238	12.2	1.3	54.2	46.6	5.5	0.4	26.5	0.8
	月1回以上	24	8.3	4.2	58.3	50.0	-	-	12.5	-
	特になし	393	5.9	0.3	41.2	34.6	2.3	1.0	39.2	3.1
家族外交流別	毎日	219	9.1	-	41.6	41.1	1.4	-	35.6	3.2
	週1回以上	405	10.4	1.5	54.3	43.7	3.7	-	28.4	1.7
	月1回以上	105	4.8	-	49.5	32.4	1.0	-	40.0	-
	特になし	211	4.7	0.9	40.3	26.1	4.7	2.8	43.1	2.4

4 地区の高齢者の詳細ニーズ分析（世帯状況×地域交流）

高齢者のニーズについて、世帯状況と家族以外の人との交流状況（週一回以上を“交流あり”と設定）に着眼し、2つの組み合わせで6つのタイプに分類してニーズを分析しました。

『安心して生活するために、今後身近な地域に必要と感じるもの』については、地域の環境整備として公的に必要なニーズを分析することができます。

一方で、『今後、地域で助け合えると良いと思うこと』については、自らができると思うことや人と人との助け合いにより実現できる可能性があるニーズを分析することができます。

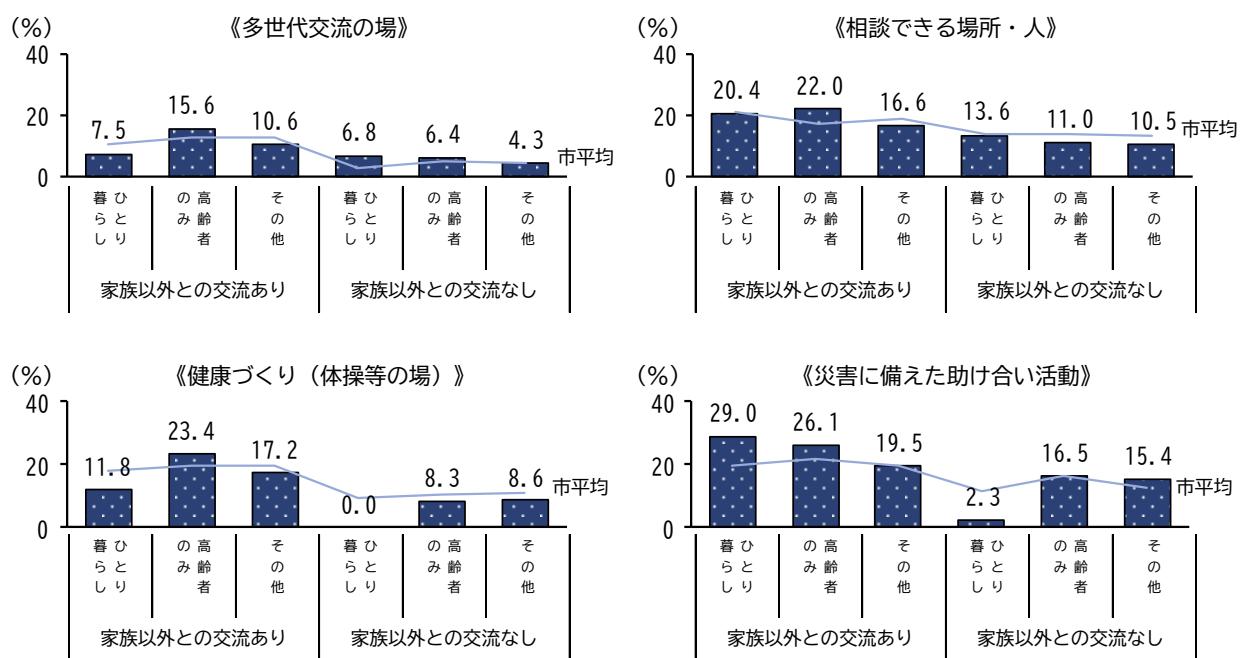
特に、市平均と比較して、高い値を示した項目は、当該地区の特徴的なニーズと言えます。

【6 タイプ】

- ①家族以外との交流がある「ひとり暮らし」世帯
- ②家族以外との交流がある「65歳以上の高齢者のみ」世帯 ※“高齢者のみ”と表記
- ③家族以外との交流がある「その他（親族と同居している等）」世帯 ※“その他”と表記
- ④家族以外との交流がない「ひとり暮らし」世帯
- ⑤家族以外との交流がない「65歳以上の高齢者のみ」世帯 ※“高齢者のみ”と表記
- ⑥家族以外との交流がない「その他（親族と同居している等）」世帯 ※“その他”と表記

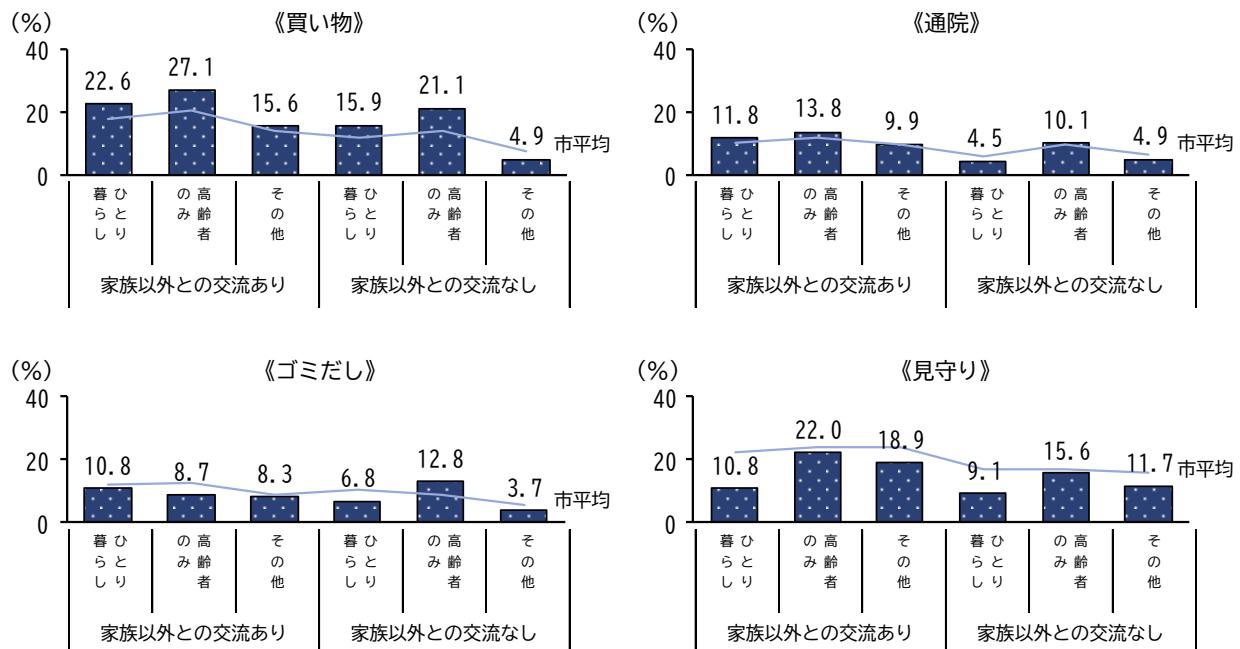
安心して生活するために、今後身近な地域に必要と感じるもの

加木屋地区では、『災害に備えた助け合い活動』の割合が、家族以外との交流がある「ひとり暮らし」世帯で市平均より高くなっています。



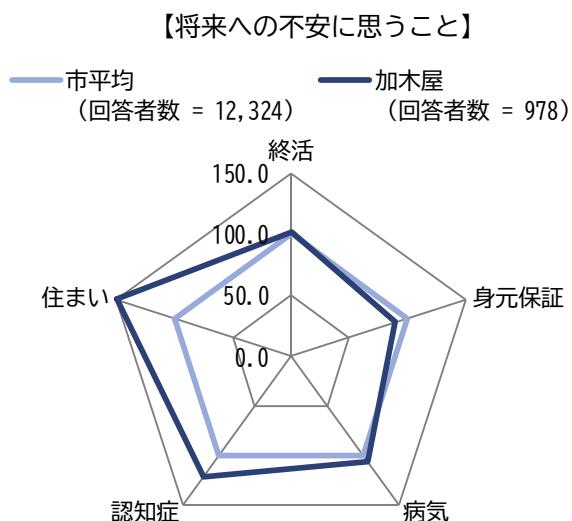
今後、地域で助け合えると良いと思うこと

加木屋地区では、『買い物』の割合が、家族以外との交流がある「高齢者のみ」世帯、家族以外と交流がない「高齢者のみ」世帯で、『ゴミだし』の割合が、家族以外との交流がない「高齢者のみ」世帯で市平均より高くなっています。



将来へ不安に思うこと

※将来へ不安に思うことについて、市平均を100.0とした時の当該地区の特徴を示しました。



総括

加木屋地区は、市平均と比較すると、「その他」世帯の割合が高く、親族と同居している人が多くなっています。家族以外の人との交流頻度は市平均と同程度ですが、交流相手として「町内会・自治会」の交流が低くなっています。

地区の詳細分析では、今後地域で助け合えることとして、「家族以外との交流がある高齢者のみ世帯」、「家族以外と交流がない高齢者のみ世帯」で「買い物」ができる環境や取り組みを求めていました。

加木屋地区の地域特性として、安心して生活するために地域で必要なものが市平均と比べ「特になし」が多いことから、現在の生活に不安は少ないと考えられるものの、将来を見越して「買い物」など生活サービスの創出で、地域で不安のない生活を送ることが継続できるものと期待できます。